

奥州めぐみネット設立

22年3月に環境市民会議「奥州めぐみネット」が設立されました。環境市民会議とは、環境を守るために行うべきことを市民の目線で考え、市と協力して実践していく組織です。豊かな奥州の自然環境を次世代につなげていくため、多くの市民の皆さんの参加により、活動が広がっていくことが期待されています。

市をとりまく自然環境

自然が豊かといわれる県内でも、環境の悪化や破壊が心配され、貴重な動植物の減少が続いています。わたしたちの周りでも、山や川、道端へのごみの不法投棄が後を絶たず、水の汚濁や、手入れをされずに荒廃した森林が増加しています。山や川は、生態系や水資源の循環などにつながっており、環境汚染がもたらす影響は、他人事ではないのです。

市の環境施策の概要

市は環境を守るため、平成19年3月に市環境基本条例を制定。また、21年3月に「未来を見つめる百年循環都市、地球と共存する奥州」を目標とした市環境基本計画を策定しました。

条例には、市と共に基本計画を推進するパートナー組織「環境市民会議」の設立を明記。市民会議は基本計画に基づいて、環境関係施策の進捗状況の管理・評価を行うほか、市長に対して提言を行うこともできます。これは、全国でも珍しい組織です。また、基本計画には、環境をキーワードとしたまちづくりを目指し、市民・市民団体・事業者・行政がそれぞれ取り組むことを盛り込みました。

環境市民会議の設立へ

では、市民はまちづくりにどのように参加したらよいのでしょうか。その答えを出すために、市民の活動の中心となる市民会議のあり方について検討が始まりました。話し合いが進展したきっかけは、19

「奥州めぐみネット」が発足

10回にも及ぶ会合を経て、ことし3月22日、市環境市民会議「奥州めぐみネット」が設立されました。名称には、奥州市の人材や環境を「めぐみ」ととらえ、ネットワークでつなげていこうという思いが込められています。

設立時の会員数は101で、個人55人、市民団体25団体、事業所17社、賛助会員4件。今まで区ごとに活動していた団体の、人材やアイデアも集まり、区を越えた活動もできるようになりました。

会員は、「できる活動が増える」「参加者が増えると、成果も大きくなる」と、夢の実現に期待しています。

めぐみネットに参加しよう

めぐみネットは、現状をしつかり認識して活動できるよう、4つの部会を設けており、会員は部会に所属することとなります。希望する場合はいくつかの部会に所属することも可能です。各部会が本年度取り組む内容は下記のとおりです。自然政策や、自然食の体験のほか、市内を巡るツアーなども計画しています。

豊かな環境を次世代へ残すために、あなたも一緒に活動してみませんか。

■年会費 個人1000円、団体・賛助2000円、事業所3000円

■問い合わせ・申込先 本庁生活環境課 環境係（内線213）

4月25日に行われた奥州めぐみネット初イベント「奥州の大地の歴史たんけん」。参加者29人はバスで市内を巡り、吉田智子会員（岩手大学講師）の説明で地層や化石を学びました。
①5億年前の南の深海で出来た母体変成岩の見学 ②地層の見学では亜炭を発見 ③4億年前に南の浅い海で出来た化石の採取 ※すべて前沢区母体地区



Interview



奥州市環境市民会議
奥州めぐみネット

高橋 貞勝 代表
(江刺区)

環境保全の取り組みには、大きくは地球温暖化の防止から、身近なところではごみの減量化などがあり、環境問題がかかわる範囲は、広く、多様です。しかし一人一人が意識を変え、小さなことから対処していくことで、美しい自然と住みよい生活環境を守ることができると思います。環境の大切さを意識するには、幼少時からの教育も大切と考えています。奥州めぐみネットの会員には、意識を持って活動してほしいので、年会費をいただくことになりました。会員数が増えないのではという心配をよそに、3月設立当初の101人から、現在8人増えています。会員を増やし、広く意見を聞きながら、運動の輪を大きく広げていきたいと思っています。環境を守るため、焦らずじっくりと、息の長い活動として取り組みたいと考えています。

年6月に、市と県立大学との共同研究で、環境を地域課題として取り組むことが決まったことでした。大学と一緒に環境フォーラム開催などに取り組むうち、市民の自主的な環境活動への機運が高まり、21年4月に環境市民会議設立準備会が立ち上がりました。メンバーとして、基本計画策定委員の市民委員17人の中から15人が協力し、規約や、議決権、年会費や活動案などを議論。いろんな意見を生かしたいと、メンバーの追加募集も行いました。会合の中で、基本計画推進のためだけの団体ではなく、市民活動の中心となって、自ら考え、楽しく実践する組織にしたいという方向性が決まりました。議論の盛り上がりもあり、会合に参加するメンバーの数は、最終的には33人になっていました。

22年度は
こんな活動を
予定しています

○資源循環・廃棄物部会
不法投棄の発生原因の分析と防止策検討
マイバック利用の啓発

○自然環境部会
自然環境のデータベース作成
胆沢扇状地の絶景地点やビोटープ探索ツアー

○生活環境部会
小中学校での地球温暖化に関する授業の支援
環境パネル展の展示
野草を用いた料理や、玄米ごはんなどの試食体験
タバコの害の情報提供

○環境学習部会
環境フォーラム2010の企画・運営
「奥州の自然」の編成
「エコの楽校」の設立
市内の大地や河川を学ぶツアーや学習会の開催

